

あなたをプラスの人生へと導く

しなんげ

2

2017



あなたの初めは小さくあっても
あなたの終りは非常に大きくなるであろう。
(ヨブ記 8:7)



純福音東京教会・出版部

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町 2-2-19 Tel.03-3232-0067 Fax.03-3232-0729 www.fgtc.jp

Full Gospel Tokyo Church

CONTENTS

- 2 廃墟の下に宝がある／イ・ヨンフン牧師
- 4 ヨンサンコラム……………チョウ・ヨンギ牧師
永遠の昔に定められた聖誕
- 6 メッセージ……………
神様をもてなす新しい年／志垣重政牧師
- 9 信仰の明文化を成し遂げますように⑩……………
幅広い聖霊運動を繰り広げなさい／イ・ヨンフン牧師
- 14 出会いの祝福……………カン・サン牧師
「たましいの基底」に出会う
- 17 主と歩く……………ヘンリー・グルーバー牧師
創造し、治め、ふえよ
- 22 我が人生のプラス……………
・幼き日の思い出と新しい夢／カン・ソンファ
・父を送り出し、父に出会う／イ・ウィス
・主が我が家を生かされた／ユン・ハクリョル
- 34 我が人生のプラス物語……………キム・ボンジュン牧師
へつらいと肯定
- 37 美しき人……………パク・ヒョンホン代表
たった一人の手を最後まで握って離さない
- 42 マラナ・タ……………ソン・ヒョンギョン牧師
十字架と復活の間にある真実
- 46 統一時代を開く……………ベン・トレイ牧師
資本主義が大丈夫なものなら、悪いものは何なのか？

この「しなげ」は、おもに韓国版信仰界 12 月号より抜粋して、翻訳し再構成したものです。
ちなみに、聖書の御言葉は「口語訳」を引用しています。

廃墟の下に宝がある

一年を振り返って感じることは、多くの期待、夢、希望が壊れてしまったということです。無数に砕け散ったものをかき集めるような苦い思い、それが一年の最後、私たちの自画像なのかもしれません。しかし壊れた夢、そこにも神の摂理があるということを悟れば、大きな恵みとなります。13世紀のペルシャの詩人ルーミーは言いました。「廃墟の下に宝がある」と。

一年間に失敗したこと、思い通りにならなかったことを振り返ってみると、そこにも神の摂理があるのです。パッチワークは捨てられた布きれを集めて完成させた作品です。壊れ、裂かれた未完成のものが集められ、完成品になること、それが神の摂理です。

今年10月、90歳と高齢のテノール声楽家、アン・ヒョンイルさんが弟子たちと一緒にコンサートを開き、老来ますます壮健であることを誇りました。コンサートの前、ある新聞のインタビューを受けました。そこで優れた発声法を身につけることに

なったきっかけについて明かしました。彼は若い頃、コンサートを翌日に控えた日に、カンジャンケジャン（毛かにを醤油づけしたもの）を食べて食中毒にかかってしまいました。一晩苦しみ公演当日、キャンセルするしかない状態でしたが、キャンセルできずに仕方なく舞台に立つことになりました。しかし、驚くほど最高の声が出たのです。彼は、自信に満ちて誇った力をすべて捨てたら最高の音が出たと、インタビューで証しました。

最悪が最高になる。最悪の状況でも決して絶望することはありません。私たちの神は共に働いて、万事を益となるようにしてくださる方です。今年、私たちは多くのものを失い、多くのものが壊れる体験をしました。しかし、人に失望し、環境に絶望するよりも、それを治められる神の摂理に焦点を当て、感謝すると、道が再び開かれます。「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかったことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」(1コリント2:9) ✠

永遠の昔に 定められた聖誕

クリスマスを迎えて思うことです。イエス様の誕生は、天と地と世界とその中の全てが存在する前から、既に計画されていました。ミカは、イザヤと同時代に生きていたイスラエルの預言者です。イエス様がどのようにお生まれになるかについて預言し、既にそのことが世の初めに定められていたことであると言いました。

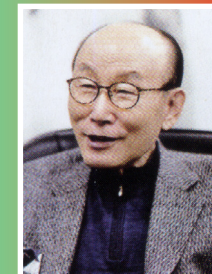
またイザヤは、イエス・キリストは非常に貧しく厳しい環境の中で出生することを明確に預言しています。

「だれがわれわれの聞いたことを信じ得たか。主の腕は、だれにあらわれたか。彼は主の前に若木のように、かわいた土から出る根のように育った。彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、われわれの慕うべき美しさもない。」（イザヤ書 53:1～2）

神様は、イエス様がどのような姿でどこでお生まれになるかについて、イエス様が生まれる約 6 百年前にこのように預言し

チョウ・ヨンギ 牧師

単一教会として世界最大規模であるヨイド純福音教会の元老牧師として仕えている。筆者は、美しい社会作りへの参加と、真の福祉社会のために、キリスト教精神を基にして設立された「ヨンサン・チョウ・ヨンギ慈善財団」の理事長として、第二の働きを繰り広げている。



ておられます。アダムが罪を犯してから、イエス様が地上に初臨するまでの全ての人類史は、イエス様の誕生のための準備に過ぎません。イエス様が来られ、人類の罪を贖うために十字架に釘づけられて亡くなられ、三日目によみがえり、昇天された後は、2 千年前から今日に至るまでの全ての歴史の流れは、イエス様が王の王、主の主として再臨されることを待ち望む歴史の連続です。

そんな中で、この世界の歴史には多くの変化がありました。しかし、この変化は単純なアクセサリーに過ぎず、全ての歴史の主権は神様の手の内にある、この歴史は最後の勝利の瞬間に向かって恐ろしい速度で突進しているのです。

この世界の歴史は、神様の側から見ると、キリストの国を成し遂げようとする、贖いの歴史です。従って、神様を信じる我々は、大胆な心の姿勢で歴史の変化に揺れ動かされることなく、前に進むことができます。

アダムが墮落した時、神様は獣をとり、その皮で衣を作って下さって、イエス様が来られる例示とされました。またイエス様が来られてからは、私たちに再び来ると言われて、人類世界の最後の日があることを教えて下さいました。ですからクリスマスは、私たちに神様の約束の成就を保証する一番信頼できる客観的事実なのです。†



神様をもてなす 新しい年

マタイによる福音書 7 章 9 ～ 12 節



新しい年は、天地に何かが起こることではなく、永遠なる時間と歴史の流れの中のある時点を刻むことであり、新しい覚悟を持つことです。新年最初の主日を迎えるにあたり、これからの暮らしの方向を慎重に決めなければなりません。そうでなければ、新年の意味がないからです。

第一に、神様を心からもてなす新しい年にしなければなりません。まずは、神様の御言葉に耳を傾けましょう。御言葉を無視して、神様をもてなすことはできないからです。今年こそ、最高の宝物である御言葉を身近におきましたよう。御言葉を黙想し、唇で是認し、御言葉に聞き従うのであれば、365 日、すべてに通じ、平坦な道を歩むことができます。

詩篇には、「このような人は主のおきてをよろこび、昼も夜もそのおきてを思う。このような人は流れのほとりに植えられた木の時が来ると実を結び、その葉もしばまないように、そのなすところは皆栄える」(詩篇 1:2 ～ 3) とあります。これこそ、神様が私たちのために備えてくださった成功の道なのです。

次に、熱心に祈ることが神様をもてなすことになります。祈



あなたがたのうちで、自分の子がパンを求めるのに、石を与える者があろうか。魚を求めるのに、へびを与える者があろうか。このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物を知っているとすれば、天にいますあなたがたの父はなおさら、求めてくる者に良いものを下さないことがあるうか。だから、何事でも人々からしてほしいと望むことは、人々にもそのとおりさせよ。これが律法であり預言者である。

ることにより聖霊充滿となり、神様と深い交わり、もてなしができるからです。

そして、戒めを守り、義をもって神様をもてなすのです。父母の言いつけを守らずに、両親をもてなすと言えるでしょうか？ ましてや、神様の戒めを守らない人が、神様をもてなす資格があるのでしょうか？ ヨハネの第一手紙 5 章 3 節に、「神を愛するとは、すなわち、その戒めを守ることである。そして、その戒めはむずかしいものではない」とあります。戒めを守ることを神様が喜んでくださるからです。

更に、十分の一を捧げなければなりません。マタイによる福音書 6 章 21 節に、「あなたの宝のある所には、心もあるからである」と記されています。御言葉にあるように、十分の一は神様のものです。これを決して盗んではならないのです。

御言葉に耳をかあ向け、祈って聖霊充滿となり、戒めを守り、十分の一を捧げることによって、神様をもてなす 2017 年になりますように。

第二に、隣人をもてなす新しい年にしなければなりません。

律法学者とイエス様との問答に、『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くして、主なるあなたの神を愛せよ』。また、『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』(ルカ 10:27) とあります。これが、神の国の法則だからです。隣人を赦して、愛することが、もてなすことになります。柔和で謙遜な心で隣人に接することが、もてなしなのです。第一に神様、第二に隣人、第三に自分をもてなす素晴らしい 2017 年になりますように。

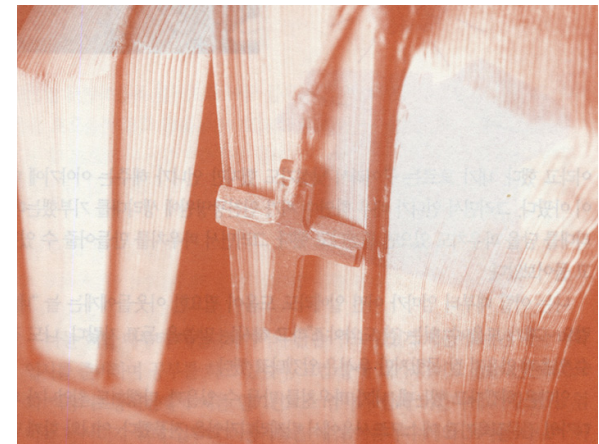
第三に、肯定的に暮らす新しい年にしなければなりません。人間的な努力で肯定的な考えを得ることはできません。十字架の下に行ってイエス様を見上げるとき、十字架から流れ出る血潮が、私たちの考えを変えてくれるのです。赦しを得て義人になったこと、聖霊充滿であること、癒しの川が流れていること、呪いから解放されて自由を得、アブラハムの祝福が与えられていること、永遠の命が与えられ、神様の生命に満ち溢れていること、天国の市民となったこと、これらが私たちの考えを肯定へと導いてくれるのです。そして、どんな環境の中でも感謝する心を持てるようになります。

詩篇 50 篇 23 節には「感謝のいけにえをささげる者はわたしをあがめる」とあります。感謝は神様を信じていることに對する告白であり、『何故?』という心を捨ててすべてを神様の摂理に委ねることにほかなりません。

2017 年の目標を、①神様をもてなし、②隣人をもてなし、③肯定的に生きることにおき、真の幸福を、周りの人までも幸福になる祝福が豊かにありますよう、主の御名によってお祈りいたします。†



幅広い聖霊運動を 繰り広げなさい



チョー・ヨンギ牧師のリバイバル聖会は、聖霊の溶鉱炉だった。いつもリバイバル聖会の時は人々があまりに集まり、講壇の上になで人々がずらっと座っていた。私は全リバイバル聖会を通して多くの恵みを受けた。リバイバル聖会という聖会はもれなく捧げた。チョウ・ヨンギ牧師は 1 年に 1 度は詳しくご自身でヨハネの黙示録講義でリバイバル聖会を導いた。集会期間は 1 週間だった。しかし、一度はあまりに恵みが溢れ、またヨハネの黙示録をすべて説明するのに時間が足りず、集会をもう 1 週間延長したこともあった。私は 2 週間毎日のように集会に参加した。

再臨信仰を持つ

それらの集会は私の信仰を一次元高い場所へと導いた。そして心の奥深いところから「イエスの再臨」に対する強い希望が湧いた。

「もしかすると私が今日、天に上げられたのではないか？」

このような考えをするほどだった。再臨に対する健やかなる希望が韓国教会を大きくリバイバルさせると考えた。再臨信仰は、個人の信仰も大きく成長させる。私もその時の信仰がさらに堅固となり大きく成長したと自負する。私たちは今、イエス様が再び来られると喜びで迎えられる最善の人生を生きて行く終末論的な信仰を諦めてはならない。このような切なる信仰が、人生と信仰を力動的なものにさせる。

しかし、伝道館および新天地をはじめとする時限的な終末論者たちは現実を脱ぎ捨てたままただ自分自身だけの王国を主張する未進的終末観だけに依存する過ちを犯している。私はチョウ・ヨンギ牧師の滝のように流れる御言葉に感動を受けた。そして決心した。

「主は来られる。そして一瞬一瞬を、最善を尽くして神様に忠誠しなければならぬ。絶対に脇目もふらず熱心に主に仕えよう。」

私は「一生涯、主の栄光のために生きる」と考えるだけでなく、後々どうなるかという具体的な夢を持っていなかった。時間が経ち、自然と「牧会者」という未来の絵を胸の中に描いていたようだ。牧会者以外の他の夢を持つ理由も、機会もなかった。それはあまりに当たり前で自然の流れだった。

幼子イエスが主人公だ

既に青少年期にイエスが私の人生の中心となっていた。歴史

の車輪をゆっくり回しておられる神様を心の中心にお迎えした。

今、生誕節が間近だ。人々は生誕節の真の主人公が誰なのかをよく知らない。最近、生誕節の主人公はサンタクロースに、生誕節の意味がプレゼントをあげたりもらったりし、ショッピングする季節だ、という程度に変化している姿が見受けられる。生誕節の主人公は幼子イエス一方だ。幼子イエスのいない生誕節は光を失った宝石のようだ。生誕節になれば思い浮かぶ話の一つある。

ある一人の女性が赤ん坊を抱いたまま、山を越え家に向かっていた。その日は暴風雪だった。大雪は道路の上を覆ってしまった。女性は彷徨いながら雪の中に埋まった。2日後、救助隊が赤ん坊を抱く女性の姿の雪像を発見した。雪像の中から赤ん坊の泣き声が聞こえている。救助隊員が雪をどかすと、その中には女性の裸体が見えた。女性は自分の服をすべて脱ぎ、それで赤ん坊の体を包んだまま凍死した。母の崇高なる犠牲と愛が赤ん坊の命を救ったのだ。

その子どもは叔父の手で育てられた。そして弁護士試験に合格した。その日、叔父は胸にしまっておいたある女性の死にたいする話を打ち明けた。青年は悲しみで泣きながら、ある冬の日、母の墓を訪れた。自分のコートと洋服と下着を一つ一つ脱ぎ、墓にかぶせた。彼は脱ぐものを脱いだ体で墓を抱きながら泣き叫んだ。

「お母さん、あの時、今の私よりもっと寒かったでしょう。生まれたばかりの赤ん坊を生かすため自ら命で守ってくれたお母さんの愛へどのようにお返しすればいいのですか。」

その偉大な母によって命を救われた人こそ、デイビッド・ロイド・ジョージ (David Lloyd George) だ。第一次世界大戦で英

国軍長官として活躍した人物だ。強力なリーダーシップ英国社会保障制度の基礎を確立した。人類の罪を贖うためこの地に來られたイエスの姿と子どものために死を選んだ母親から、高い次元の愛を悟った。

「教団の型にはまっではいけない」

私は小学校卒業後、両親と相談し長老教系のミッションスクールであるデグアン中学校に進学することに決めた。父は家族会議が終わった後、私にこう言った。

「最終的にチョウ・ヨンギ牧師に許可を貰ってきなさい。牧師様が許可をくだされば、必ずその場所で祈りを受けてきなさい。」

私はデグアン中学校の入学願書を持ち、チョウ・ヨンギ牧師の元へ行き、すべてを話した。また、「とても良い選択だ」と祈ってくださった。デグアン高等学校へ進学する時も同じだった。しかし高等学校を卒業し、大学進学する時は少し葛藤があった。教団の神学校に行くのか、一般の神学大学に行くのか。私はそのような葛藤を抱え、チョウ牧師へ相談した。

「私が教団の神学校と総合大学内の神学科とどちらを選べばいいですか？」

「教団の神学校よりはまず一般大学の神学科で勉強し、教団の神学校に行くようにしなさい。この場合、延世大学神学科に行くようにしなさい。あなたは私たちの教団にだけに留まっではいけない。リベラル (Liberal) な場所で幅広い聖霊運動を広げることも良い。今は超教派的な活動が必要な時代だ。」

それは 1973 年のことだった。純福音教会がソデムンからヨイドへと引っ越してきた年だ。チョウ牧師は既に遠い未来を見つめていた。牧師の考えはそれでも深く広がった。アッセンブリー



聖霊大リバイバル聖会に出席する聖徒たち

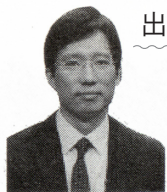
オブゴッドが韓国キリスト教教会協議会 (NCCK) に加入する時も、チョウ牧師と相談したことがあった。

「私たちの教団が志向する信仰と NCCK の一部進歩的な信仰が少し、合わないようです。どうしたら良いですか？」

チョウ牧師の答えは明快だった。

「進歩的な教会協議会に入り、聖霊運動で変えれば良い。進歩が少し、合わないと言って皆が背を向けてしまったらどうするか。進歩の中に入り進歩を変化させなければいけない。」

チョウ牧師は人生の重要な分かれ道でいつも方向を与えてくださった。当時、一部の長老教団ではチョウ・ヨンギ牧師とヨイド純福音教会の聖霊運動に対する強い牽制があった。しかし牧師様は私をむしろもっと遠くに送り、広い視野を持つように導いてくださった。†



出会いの祝福／カン・サン 牧師 | 十字架教会、＜私は本物なのか＞著者

「たましいの基底」 に出会う

だれかが教会の戸を叩いた。戸を開けた瞬間押し寄せてくるひどい汗の臭いは彼がどれだけ長い時間そのトイレトペーパーを持って歩き、階段を上ったり下りたりしたかを予想させてくれる鮮明な嗅覚的刻印だった。彼はその過程で数えきれないほどに断られてきただろうし、そのような拒絶を経験しながらも、再び希望をもってこの雑居ビル3階の教会の急な階段を上ってきたのだろう。彼がイエスを信じているかはわからないが、上ってきた分下りないといけないと知りながらも、高いところにある教会まで労力をかけてきた理由は、おそらくキリスト教が持つ一抹の慈悲に訴えるためではないかと思った。短い考えの軌跡が終わる頃、彼の声が聞こえた。

「先生、これ一つだけ買ってください。」

その短い文章と素直な表情から、私は彼が過ごしてきた過去の厳しい流れを、少しでも新しくしてあげたいという気持ちで切実になった。長い旅路でしばらく座って休める影と、長い砂漠の旅行のオアシスの水のように。

「おじさん、いくらですか？」

彼はトイレトペーパーを私に見せながら、1ロール5千ウォンだと言った。トイレトペーパーについて全く知識はなかったが、そのトイレトペーパーが非常に質の落ちる製品だとすぐに気づいた。私は5千ウォンでトイレトペーパーを買って、残った5千ウォンでは昼食を食べようと思った。

「おじさん、1ロールだけ買いますので、5千ウォンおつりをください。」

彼は今おつりがなければしばらく待つてほしいと言った。彼はトイレトペーパー1ロールを教会の前、3階に置いて急いで降りて行った。私は教会の扉を開けたまま彼を待った。しかし、5分経って10分経っても、彼は戻って来なかった。階段を下りてみると、2階にトイレトペーパー1ロールがぽつんと取り残されていた。

トイレトペーパー2ロール

本当に不思議なのは、自分が5千ウォンのトイレトペーパー1ロールを買う時はイエス様の心だったのに、もう一回その5千ウォンの安物トイレトペーパー1ロールを持って教会に上るときは心が変わってしまったということだ。ちょっと前まで彼を助けようとしていた気持ちが、あっという間に激しい怒りに変わってしまった。トイレトペーパー2ロールを教会に置いて、何とも言えない裏切られた気持ちとため息が押し寄せてきた。

少し前まで読んでいた聖書も目に入らず、メッセージの準備もしたなくなかった。ある意味何でもないことによって、ここ数年間雑居ビル教会を牧会しながら濡れ衣を着せられた裏切りが、辛いことにすべてよみがえり始めた。金銭的に助けると固く約束し、一度も連絡がなかった知人たち、何度も誕生日プレゼントをもらっては、次の先生の誕生日には絶対に祝ってあげると言って、結局は私の誕生日さえ覚えていなかった信徒たち、感動したと言いながら自分の罪について指摘すると、結局は陰悪な言葉で私を非難した人たち、礼拝に来ると、祈ると、さら

にこの教会に骨を埋めると言っておいて、裏切った人たちの顔が走馬灯のように流れた。

何も手につかなくて礼拝堂に座り込んだ。あまりにも悔しくてしばらく神を恨んで不平を言った。しばらく文句を言って、礼拝堂の前の十字架を見た。じっとその十字架を眺めていたら、この小さな礼拝堂の前の、それよりも小さな十字架が少しずつ少しずつぼやけて見えた。十字架の後ろから静かな神の声が、まるでこのように言っているような気がした。

「サン、何度かの裏切りで苦しいのか？なら、全人類を救うために今まで裏切られてきた私はどれほど苦しいだろう？その十字架の過程なく、どうやってよみがえりの栄光を見ようとしているのか？」

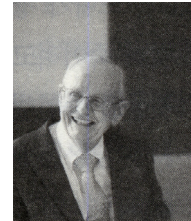
私はその昔、神の質問の前のヨブのように何も言えなかった。私が神にした多くの無意味な告白、守れなかった約束、そして神の胸を痛ませた裏切りを考えると、実に恥ずかしくて申し訳なかった。そしてその無数の裏切りを耐え忍ばれた主と、今も私の中で言葉にあらわせない切なるうめきをもって祈ってくださる御霊を思うと、また涙がとめどなく流れた。

しばらく泣いてから、その安物のトイレットペーパーを出して流した涙を拭いた。十字架にくぎ付けられた主が、あの安物の葡萄酒で最後に喉を潤しながら父のみこころを成し遂げたように、私もこの安物のトイレットペーパーで涙を拭いながら牧師になっていく。そしてまさにその時、私は悟った。自分の人生の最も深いところ、たましいの基底に何があるかを。†

一年間、足りないしもべの「出会い」シリーズを愛読してくださったしなげの読者のみな様と、この粗末な文書を励ましてくださりご連絡くださった多くの聖徒のみなさんに、この場を借りて感謝申し上げます。残っている1ヶ月も貴重な時間です。残り一ヵ月間、主とともに尊い締めくくりをし、頑張れますよう主の御名で祝福いたします。

ヘンリー・グルーバー牧師の

主と歩く



創造し、治め、ふえよ

「神はまた言われた、『われわれのかたちに、われわれにかたどって人を作り、これに海の魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべての獣と、地のすべての這うものとの治めさせよう。』」

(創世記 1:26)

創世記を見ると、神は形のない状態から天と地、あらゆる植物と獣を創造される。神はこのすべてを創造されていく中で、ご自身がお造りになったものをご覧になり喜んでおられた。神はこのように美しく素晴らしい世を創られ、神にかたどって造られた被造物である人間に治めるようにされ、園の中央にある善悪を知る木の実だけは、決して食べてはならないと禁じられた。

そしてアダムがひとりできびしく世を治めているのをご覧になり、神はアダムにふさわしい助け手として女エバをお造りになった。神は、女には聞いて話す賜物を与え、男には見て創造する賜物を与えられた。しかし女は、アダムと神との交わりを持たず、蛇と交際し始めた。女はアダムと神の声に聞き従う代わりに、蛇の声に耳を傾け始めた。蛇の声を聞くようになって女の考えは乱れ、蛇の意見に同意しその提案に従って行動した。

女が墮落すると、男もその後を追った。神の御声に聞き従い、

神の臨在の中で治めるべき二人が、神の御声とご臨在を避けて逃げ回る逃亡者となった。エデンの園という住まいと嗣業から追い出された二人は、子孫を増やした。その子孫の中には、蛇の声を聞きて神に逆らう人と、神の御声に従って神と共に歩む人とに分かれることになる。

神に逆らって兄弟を殺害したカインは墮落したが、それでも神に模って、世を治めるように造られた者であった。そして、世を治められるように、神から与えられた賜物を持っていた。カインの子孫は、その賜物と知恵を用いて、連合し、神に逆らうためのバベル塔を熱心に築いたりもした。

創世記で、アダムとエバを墮落させた蛇の勢力は、今もこの世で人々を惑わせ、神に立ち向かう企みに加担させようとする。蛇は絶えず声をかけ、その声に聞き従う人々は力を合わせて、神に逆らうバベル塔を築いた。彼らはとても裕福で強い勢力をもって互いに連合している。

21 世紀教会が直面している大危機は ISIS（イスラム過激派組織）やムスリムではない。「進歩主義思想」と言われる、言わば世俗主義思想だ。この思想は、ヨーロッパのキリスト教を衰退させ、20 世紀にアメリカを絶えず攻撃した。

世論調査結果、アメリカ人の過半数が同性結婚に賛同していると、マスコミは報道し始めた。そして、2015 年アメリカ中央裁判所は同性結婚を合法化する決定を下した。アメリカのクリスチャンだけではなく、全世界のクリスチャンが衝撃を受けた。

人口の 70% がクリスチャンであるアメリカで何が起きているのだろうか？ どうすれば国民の考えが、ここ 10 年にこんなにも変わるのだろうか？ 人々は素直にも、世論や国民の思想が時

代の流れに沿って自然に形成されるものだと思っている。

しかし、アメリカには積極的にキリスト教の基盤を破壊しようとする勢力が存在する。彼らはバベル塔を築く人たちのように連合する。キリスト教国家であるアメリカで活動する時は正体を現さず、蛇がエバを誘う時のように、聞いても見ても良いと思えるように偽装する。

この勢力はいろんな機関の内部から、まずキリスト教の基盤を破壊する。教育、行政、言論、経済、政治領域からキリスト教の法と思想を破壊する。その結果、国民の考えが反キリスト教的になれば、政府を通して同性愛合法化のような、キリスト教の基盤を揺るがす法律を制定し、福音伝道を制限したり、不法化させる。

ヨーロッパや米国で最も裕福で力ある人たちが連合し、キリスト教基盤を破壊する人たちを組織化し、その財政を支援している。この事実を知った人たちは、もしかしたらがっかりして絶望してしまい、サタンの勢力に押しつぶされ、教会はイナゴのようでサタンの勢力は巨人のように思えるかもしれない。

事実、このサタンの勢力は常に地上で教会を攻撃してきたが、キリストの復活後、中東の小さな町エルサレムから始まった福音が全世界に伝えられ、世界の国々を変化させながら勝利を重ねてきた。

イザヤ書 9 章は主の王国を描いている。まつりごとは主の方にあり、主のまつりごとと平和とは増し加わって限りなく、ダビデの位に座して、その王国を治め、とこしえに公平と正義とをもってこれを立て、これを保たれる。万軍の主の熱心が主の国をこの地に立てられることを知らなければならない。

強力な祈りでサタンのメッセージを打ち破りなさい

アメリカとヨーロッパで最も富裕で強い勢力を持つ家柄の集いである、ローマ・クラブの企画下でフォルクスワーゲン社が財政支援をし、学者たちを集め 1972 年〈制限された成長〉という本を出版した。地上の資源である食料と燃料、その他自然資源には限りがあるのに、その自然資源を使う人口は超急速に増加している。だから、これに対する対策を事前に備えておくべきだ、という内容の本だった。

今や、全世界の貧しい国々に対して、同性愛を合法化すれば世界銀行を通して国家開発資金の支援を受けられると提案する勢力は、1970 年代、貧しい国々に出産制限をすれば国家開発資金を出資するとも提案したのである。

しかし、確かなことは、人間の創造主なる神様は、神に模って治める者として創造されたということだ。人は、ただ同じことを繰り返しながら管理する者ではなく、神に模って造られたがゆえに、神の御旨に従って無から有を造り出し、創造しながら治める者である。主は生命となった私たちを愛し、福音が実を結ぶ地域で増加する人々に、創造的な解決策を通して日曜の糧と財産を得る能力と富と権勢を下さる方である。

1970 年代、サタンの勢力が〈制限された成長〉という本を出版し、人口の数を制限させ、これから世界は資源不足のゆえに貧困に陥るだろうと、憂うつなサタンのメッセージを述べ始めた時、韓国でチョウ・ヨンギ牧師を通して「創造的な力動的な教会成長」というモデルを提示された。教会歴史上初めて、超大型教会が全世界中に建てられ始めた。アメリカ、ヨーロッパ、南米の教会も目を覚まし、新しい信仰とビジョンをもって、『良き神様、祝福の神様』の肯定的なメッセージを世界に伝えた。



21 世紀、サタンの勢力は大学と学問機関、言論を利用し、学問という名のもとで、世に向かって呪いのメッセージを発している。21 世紀に「成長は制限される」というメッセージだ。20 世紀経済成長を遂げた国々に「これ以上、経済発展による富の創出はない」「21 世紀は 20 世紀のように富むことはできない」と述べる。20 世紀の福音の復興、民主主義を叶えた国々が豊かになったのに、その国に対して「21 世紀は貧困になるしかない」と言っているのである。

このようなサタンのメッセージは「進歩的な思想」を持つ言論者、学者、経済専門家を通して、権威と公信力のある団体名を名乗って伝えているため、クリスチャンまでもこの声に耳を傾け、同意してしまうような傾向が見られる。強力な祈りでサタンの呪いのメッセージを打ち破らなければならない。メディアを通して「親の世代より貧しくならなければならない」という、サタンの偽りの声に耳を傾け死んで行く若者たちを祝福し、彼らに希望を与えて指導者として立てていかなければならない。†

幼き日の思い出と新しい夢

カン・ソンファ
ゴヤン第一中学校 校長
教育学 博士



痛むときに泣くことは三流であり、痛むときに我慢するのは二流、痛みを楽しむことが一流人生だとシェイクスピアが話したと言う。

私の幼い記憶は泣き虫…汽車に乗ってソウルへ行く母を追いながら、駅に汽車が着くと付いて行き大声で泣き叫んだ幼いころの思い出がある。2歳差の子供を7人も産んだ貧しい牧師の妻。母は、牧師であり社会事業家、教育者である父の面倒をみつつ、遅くながらもソウルにある大学英文科大学院に登録し、週に何回かはソウルに行かなければならなかった。全てが足りなかった時代に、親が居るということは、不足を満たす財産のようなものだった。母親が全てである8歳の女の子には、母まで居ない日をどう過ごせばいいのか分からず、不安で長い一日だった。

ある日から泣かなくなった私は、両親が苦勞して深刻に暮ら

している現実気がつく年頃になった。そして親は、子供が勉強が出来ると苦勞の中でも喜びを感じる事が分かった。それで、足りなさの痛みを泣く表現ではなく、「勉強を頑張ろう」と決心をするようになった。

私は、一生懸命勉強したお陰で延世大学校に入学した。その時まで私は、騒ぎも無く静かに勉強をする素直で模範的な娘だった。大学に入学すると、やりたくない勉強を後回しにして青春を楽しみ、将来の青い夢が実現されるという考えが私の心を浮かせた。

大学に入学後、合コンもしたり、音楽が好きな私は「ハーモニー」という音楽サークルに入って活動したりした。大学に入れば幼い頃の泣き虫が、青年期の模範生が翼を付けて楽しく幸せな生活ができると夢見てきた。しかし、そんな人生は大学でもかなえられず、私は真剣に自分自身が誰なのかを知りたい悩みに落ちた。

私は今までの人生を振り返ってみた。泣き虫、模範学生、今は良妻賢母を夢見る少女の自画像で人生を生きられるだろうかという悩みと共に、神様とイエス様、そしてキリスト教の真理が何なのかを人生をかけて悩まなければならなかった。その当時、朴大統領が10月26日に亡くなられ、大学は休校をしていた状況だったので、さらに、生きる意味と何をして生きるのか

を知ることは切実だった。

白黒はっきりさせたい性格を持った私は、父なる神様に切なる気持ちで確認を要請した。神様は生きておられ、両親が一生をかけて仕える全能なる方ならば、私に出逢ってくださり、生きておられることを示してくださるよう人生をかけて祈った。1979年12月6日、その日は運命の日だった。

驚くことに、全能なる神様が、小さく弱い私を訪ねてくださった。その日以後、畏れ震える気持ちで神様を知るために、毎日聖書の御言葉を読み始めた。神様の御言葉が蜜のように甘いということが、どういうことかを悟るようになった。大学で活動していた音楽サークルを離れ、代わりに韓国基督学生会（IVF）に加入して、御言葉と伝道、養育と祈りの訓練を受けるようになった。教会では青年部活動をして、全ての礼拝に参加し信仰生活に励んだ。イエス様に出会い生まれ変わってから、永遠の人生と神様の御心が、私を通じどうやって成し遂げられるかについて新しい夢を見るようになった。

教育者の家で育てられ、ミッションスクールの延世大学に入学してイエス・キリストを受け入れ、IVFを通じて信仰の訓練を受けながら、私も大学で若者たちに知識と共に福音を伝える教授になりたいと夢ができた。そして、その夢を成し遂げるために、以前とは違う気持ちで一生懸命、勉強に取り組んだ。

延世大学と大学院を卒業してからは、夫と共に留学し、博士学位を取って帰国し、ゴヤン市ベツチェにある小さなベツチェ中学校、ベツチェ高等学校の校長になった。ベツチェ地域はソウル市の火葬場があり、ところどころ共同墓地に囲まれた所だ。夢見ていた教授にはなれなかったが、神様が宣教地として送ってくださったという気持ちで、ここの青少年たちに福音と知識

を伝える夢を育てている。

2002年ゴヤン市の高等学校が平準化される過程で、ベツチェ高等学校を特殊目的高のベツチェ外国語高等学校に転換し、全国から集まる英才たちを教育する機会を得た。ゴヤン市で一番立ち遅れた地域にあるベツチェ中学校は、ゴヤン第一中学校に学校名を変更した。神様は私と教職員たちに、一つの夢に向かって進む心とやればできるという信仰をくださった。毎年春には復活祭、秋には収穫感謝祭の礼拝を中学校、高等学校連合で捧げ、その度に40名あまりの学生たちが天におられる父と御子と聖霊の御名によってバプテスマを受ける。

幼い学生たちだが、イエス・キリストを主と受け入れ、父と御子、聖霊の御名でバプテスマを受ける時、私の夢が神様の中で美しく咲いていく喜びを味わう。

学生たちに、学びと共に福音を伝える学校、神様が喜んでくださり、栄光を受け取られ、高くしてくださる学校…死んだラザロに「出てきなさい」と声をかけられるイエス様の御声で墓から出てきたラザロ、その名前は神様が助けるという意味だ。悲しみと苦しみがある火葬場と墓地のある場所、一番小さくてみすばらしかったベツチェ中学校。

神様がくださった新しい名前、ゴヤン第一中学校は、今年ゴヤン市で一番新入生が多い学校となり、地域の学生たちが入りたがる学校になった。昨年の収穫感謝祭にも学生たちと共に感謝の礼拝を捧げ、新しい命の誕生を祝い、神様に喜びを持って礼拝を捧げる豊かな実りがあった。全ての感謝と栄光を神様に捧げる。今までの計り知れない多くの苦難は実が実るためであり、ようやく苦難が喜びになり、感謝になったのは、全て神様の恵みだ。†

父を送り出して、父に出会う



私の幼少時代を思い返せば、楽しいことがとても多かった。友人と一緒に過ごしたわずかな楽しいことや、兄弟達と一緒に過ごした心豊かで幸せを与えてくれた日々があった。そのようなすべてのものを浮き彫りにする言葉がある。「離れる」そして「懐かしさ」だ。

周囲の人達に目を向け始める小学校5年生の時、父親の喘息が始まり、弱い父親が目に入るようになった。家に一人でいる父親がずっと心から離れなかった。だから学校が終わったら父親のところまで走って行って父親と一緒に会話を沢山した。父親が昼寝をする時は、その胸に抱かれて一緒に寝た。まるで、母の胸に抱かれた赤ん坊のように。生まれて初めて尊敬できる人、しかしその私の父親は中学校一年生の冬、私の胸から離れていった。

イ・ウィス
サラン教会 牧師
男性使役研究所 所長



当時、私は仏教徒だった。良く分かって信じていたわけではなかったが、母親が通っていたので自ずと仏教徒になった。父親が天に召された後、虚脱した私の心はどんどん大きくなってどんなものでも満たされなかった。子供の時の日記を少し前に開いてみた。その日記は、その頃悩んでいたことでいっぱいだった。父親がこの世から離れ、そして幼かった私の心にどうしようもない恋しさだけを残して亡くなった。

青年時代に一緒に過ごした友人のナクチンは、レストランを経営する家庭で、家族全員が忠実に生きていた。ナクチンにはお姉さんが多かった。そのお姉さんが運営する学園に遊びに行った時、友人の姉が私を伝道した。しかし私は反発し断った。ところが、不思議なことに福音の話をされるほど私は断ることができなくなった。それで教会に通い始めた。休日になると教会に行き、普段の夜は、空いている礼拝堂で祈りをしていた。それなりに祈祷生活をして学生会の活動も熱心にした。私の思春期は父親が召される時から始まり、永遠に父親による人生のターニングポイントだった。

高校2年生の時、夏の修練会に参加した。そして各々祈祷時間が与えられた。その時間、神様は私に熱く触れられ、私の心に慰めを与えられながら私に召命の祈りをさせた。主のお呼びの前にどれほど熱く涙を流しながら感謝のお祈りをしたかわか

らないほどだった。私に尋ねて来られた主は、私に牧師になることを望まれた。夏休むが終わって、クリスチャンだった担任の先生に相談をした。すると、大学卒業した後でも心が変わらなかつたら神学校に行きなさいと話してくれた。ちょうどその当時、経営専攻を勉強したかった私は大学に進学するために努力したが、残念ながら失敗して就職をした。

そして、就職してからも、勉強に対する心をあきらめられず、夏休みが終わる頃から勉強を始めた。夜は布団を引かず寄りかかって寝るほど熱心に努力をした。数学能力試験が終わった後、少しの休憩があった時間に、故パク・ユンセン牧師先生が代表を務めていた合同神学校の卒業式に参加するようになった。当時、私を指導していた教役者が、この合同神学校の卒業生だった。私はお祝いのために卒業式に参加し、偶然パク・ユンセン牧師先生の説教を聞くようになった。テモテへの第二の手紙2章15節「あなたは真理の言葉を正しく教え、恥じることのない練達した働き人になって、神に自分をささげるように努めはげみなさい」という御言葉をもってメッセージされた。

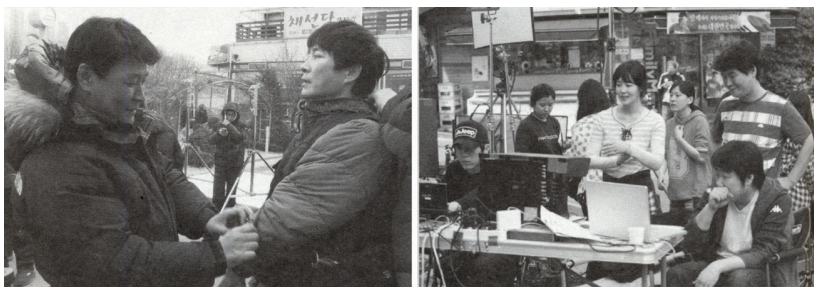
この説教を聞きながら心の底から悔い改めが出た。主のお呼びに従順できなかった私の姿に対する悔い改めと、決断に対する祈りだった。

卒業式が終わった後、伝道師先生の家族と一緒に食事をするため、サウトウに移動することになった。私は車に先に乗って待っていた。ところが、担当牧師先生が来て他の車に移動するよう言われた。そして私が最初に座っていたその場所には一緒に来た他の姉妹さんが座った。そして、移動する中、ある交差点の信号が故障になっていて、私が乗った車が交差点を抜けようとした瞬間、後方から“ガン！”と音が聞こえた。後ろを

見たら、大型トラックが後ろに来た車にぶつかったのだ。驚くべきことに、少しの擦り傷があっただけで、大きな負傷を受けた人はいなかった。その瞬間、私は神の守りを強く感じた。なぜなら、その事故があった車は、レストランに移動する前に私が先に乗っていた車だったからだ。私が最初に座っていた場所に座っていた姉妹さんは、気を失っていた。車の後方は、タンクローリーによって縮まっていたが、体型が小さかったその姉妹さんは大きく負傷はしなかった。もしもその場所に私が座していたら、私は重症か死んでいたかもしれない。そうして、再び私を探して来られた神の御前に跪き、従順するより他なかった。その日から迷うことなく神学校に入学し、「家庭使役」の働きに携わる牧会者としての人生を送っている。

過去を振り返ってみたら神の導きの痕跡が見えた。天の父は肉体の父を私の元から連れ去って、自ら私の父になってくださったのだ。計り知れないほどの神の恵みを味わいながら、今まで働いてきた。時には生きている神の驚くべき能力を働きの現場で目の当たりにしたりした。今も「家庭使役」の働き人として、私を通して治癒と回復の働きを起こされる。常に心の底から感謝する。神様からの召しをどのように確信できたか質問されたら、私はこのように答えたい。「天のお父様は私と共におられ、数多く恵みの痕跡が私を呼んだ明らかな理由です」と。主と出会うその日まで恥じることのない主の働き人として生きていきたい。†

主が我が家を生かされた



大統領の秘線実勢と呼ばれる人々に数年にわたり国政壟断され、国全体はめっちゃめっちゃになっている。霊に縛られるという経験がない人は、あり得ない話だと言うかもしれない。しかし、私は100%十分にあり得る話だと考えている。私がまさに、そういう霊に縛られた経験を持つ人だから。

2008年春、放送作家であり映画監督である私に、主が強権的に訪ねて来られた。参考に、私は反キリスト教的な人だった。劇作を専攻した私は、放送作家の生活をしながら、さまざまな種類のクッ（神を憑依させお告げを行う祭儀）を芸術として昇華させ、国内外に知らせることに使命とやりがいを感じながら生きていた。だから、多くのシャーマン（霊媒師、占い師、巫女）と自然に交流し、2006年、遂にシャーマンたちの投資で、「ユーモラス」という外注製作社まで設立した。その当時、私の周り



ユン・ハクリョル

映画監督、ソウル芸術実用専門学校
放送作家学科教授

に思い煩う人がいれば、何の問題か尋ね、それに応じて、病気や、事業、物質、健康、人間の関係などの悩みや心配に相応した優れたシャーマンを紹介した。彼らを人間文化財に作るのに一助し、シャーマンたちの広報大使の役割をしながら暮らしていた。

彼らは、私が世の中で高まることを願った。私の影響力が高まってこそ、彼らも共に共存するということを知っていた。彼らは春と秋に私に縁起クッ、事業クッ、健康クッなどをしてくれた。そのせいで小学生の息子と娘もこれらを見て成長した。義理の母は日本の創価学会の地域責任者として歴任した方であり、妻は日本留学、SGIが作った創価大学を卒業した仏教徒だった。欠損家庭の傷を持って成長した私には不安と傷が蔓延し、1日に数回ずつ私の家族と周辺の人々に怒りを爆発したりした。外見は華麗かもしれないが、私の魂は蝕んでいった。

私がシャーマンたちを動かしていると思った人生は、ある瞬間から邪悪な霊に操られ慰められないと、たった一瞬も生きていけない精神的奴隷になっていった。シャーマンたちから朝電話がなければ、一日中何もできないほどに囚われて生活していた。道を歩いていても、誰か私を探して付いて来るようで、後ろを振り返ったりする。世的な悩みと心配事で、お酒なしには眠ることができなかった。家庭では、毎日大声を出すばかりで、まるで悪魔のように自分が変わっていった。

しかし、ある夏の日の午後、私の事務室の隣で整形外科を運営していたクオン・ヨンミ勸士さん（当時地球村教会の執事）に、「お茶でも飲みませんか」と誘われた。何も考えずに付いて行ったカフェ。そこにはシンガル（地名）から講道師と奥様が来ていた。遅くに年老いて神の召命を受け、神学を学んでいるという。シンガルから江南の狎鷗亭まで私のために、祈ってあげるために来たと言われ、私は感謝の気持ちでいっぱいになった。仏教徒たちは、誰かが自分のために祈ってくれれば、とても感謝する。なぜなら、仏教徒の祈りは、基本 108 礼であるからだ。

その日、私が再び生まれた日、講道師先生は私のために祈ってくださった。突然の号泣とともに、顎がはずれたように口が開き、「わたしがあなたを赦す。あなたの最後の祈りを覚えている」と、暖かい声が心に響いてきた。

中学 1 年生の冬、夜明けの寒さを避けて入った薬水洞シンイル教会のあの早天礼拝！—— 十字架を仰ぎ見ながら、神様が生きておられるなら、答えてくださいと祈った—— たった一回の祈りが、27 年が過ぎたその日に鮮明に思い浮かんだ。

そして、止めどなく流れる涙、この世の中で感じたことのない、明るくて暖かい光が全身を包み込むようだった。言葉に表せないその平安—— 私は目を覚ました。すると、およそ 40 分が過ぎていた。カフェでお茶を飲んでいた人たちは、私の姿を不思議そうに眺めていた。

私はすぐに家に向かった。なぜなら、この喜ばしいニュース、私が出会った神を妻に、息子や娘に伝えたかった。

ドアを開けてくれた妻に、「家中のすべてのお守りを燃やさない」と叫びながら、「私は神様に会った」と言うので、あきれた表情で私を見つめていた妻の顔が、今も思い浮かんでくる。



その妻は現在、平和教会の執事として仕え、伝導爆発組過程を終え、乳児部の教師として献身している。

主に会って、当時小学生の息子を初めて教会に連れて行った。幼い子供は礼拝を終えた後、このように尋ねた。

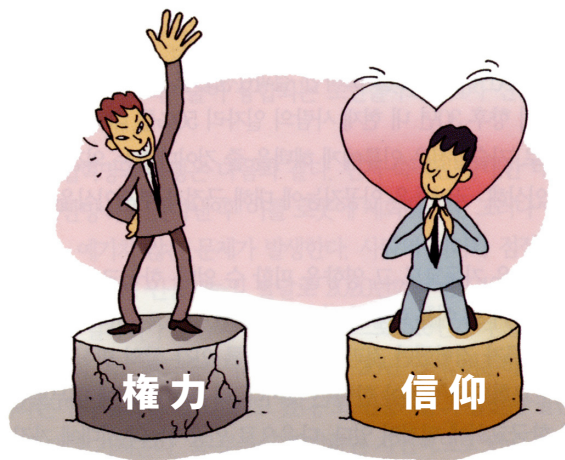
「パパ、もうこれからシャーマンの祖父に会いに寺に行かないの！」

その言葉を聞くと、私の胸が張り裂けそうに痛む。その息子を連れてお風呂に入り、膝をついて息子の足を洗いながら、私は息子に赦しを求めた。父親と息子としてはなく、人間対人間として。

いつか私の息子も父となる。「お前がお父さんになればわかるが、どんな父親が息子に悪いこと、間違ったこと、汚れたことをさせようか！父さんは良く分からなくて、悪い霊に騙されてシャーマンに会い、寺に通っていた」と、改めて赦しを求めた。神様は生きておられ、主だけが私たちの救い主であるとも伝えた。その時、小学校 3 年生の息子は、ワンワン泣きながら、私に胸に抱かれた。主はわが家にこのように訪ねて来られ、このように救いを与えて下さった。足らない無益なものだが、私に与えられた使命に感謝し従順する。†



へつらいと肯定



いつの時代、どこの国でも忠臣ちゅうしんがいれば奸臣かんしんもいる。忠臣は王様に国の情勢を直言する忠実な家臣であり、奸臣は自分のために事実を隠し王様におべっかおべっを言う者である。忠臣たちの直言に耳を傾けると善政を施す王様になれる。奸臣たちのおべっかに耳を傾けると暴政の王様になれる。朝鮮王朝 10 代目の燕山王ヨンサン朝は自分に直言をいう家臣たちを『権力者の私に忠告などできるものがあるのか？』と激怒し、更にその家臣たちを悲惨な結果で処刑を下した。沢山の家臣たちを粛清したことで、王位から廃位とされ燕山君に下ろされた悲話の歴代王の燕山君である。

イ・スンマン
大韓民国の初代大統領の李承萬氏の例である。李承萬初代大

神への絶対的肯定はイエス・キリストを信じるという信仰の心の中でのみ行われる。権力を念頭にして応ずるのであれば、それは絶対的肯定より絶対的へつらいである。しかし実際に、多くの場合「絶対的肯定」の意味は歪曲されてしまっている。

統領は忙しい日々、重要閣僚たちと一緒に会議を進める最中だった。解放政局から政府主立、朝鮮戦争などで海千山千も経験したつわものだ。70 歳を迎える大統領は、やたら近づき難いカリスマ的雰囲気も醸し出していた。平和な日々が過ぎ行くある日のこと、大統領が俄かにオナラをした。加齢により老化した大統領が腸の筋力調節低下でオナラを漏らし、大きい音を響かせたことで周りの人たちの間で微妙な空気が流れた。

知らないふりでは済まされない状況の中、瞬間的に国会議員長は手を合わせながら、『大統領閣下、お体の調子がすっきり良さそうですね』とおもねり歩み寄った。その言葉に『彼はすごく肯定的な人だ』(This Man very positive thinking) と大統領はすぐさま彼を称賛した。その後、彼は瞬く間に出世道を駆け上がるものとなっていた。あまりにも急速に出世道へ邁進した結果の末、脱線し大きな事故を犯し悲劇の人生に終わりを遂げた。

この物語は、当時その現場で一緒にいた者たちが自分の子孫に語り継ぎ、生きた教訓になった。へつらい彼の一言が一老政治家の判断基準の妨げになったことは云うまでもない。韓国初代国際政治学博士であり、初代大統領であり、建国の父とされたのに、周りの部下たちの媚へつらいで判断基準を失い徐々に

転落し滅亡へと沈没してしまった。3月15日の不正選挙と4月19日の依拠へ大統領職分から下野して、逃げ込むように妻とハワイへ亡命の道を選択した。

へつらいと肯定は多大にも違うことだ。へつらいとは、目上の人の顔を伺い真実には関係無いことを蜜のように口から垂れ流し媚を売る。肯定は事物に対しての正しいリアクションだ。正しい事は正しく教える、正しくない事は正しく直して健全の対応で真実に起因する。

絶対的肯定とは真実の言葉なる聖書に対しての従順的反応、健全な受け止め方である。イスラエルの最初の王サウルの失敗を反面教師に受け入れれば、『サムエル記第一 15:22』従順になって捧げない礼拝は、かえって神様の懸念になるのだ。『従順』することが絶対的肯定の姿勢だ。絶対的肯定とは神の御旨が何であるかを知り、最優先的に反応することである。ゲッセマネ山での主・イエスの祈りのように私の願いよりも神の御旨を優先することなのだ。もしも神の御旨ではなく私の願いを優先させるならば、それは暴政に当てはまることだ。絶対的肯定はイエス・キリストを信じる信仰心のなかで行われる、権力を念頭に置いて応ずるのであればそれは絶対的肯定より絶対的諂（へつら）いである。

しかし実際に、多くの場合「絶対的肯定」の意味は歪曲されてしまっている。独裁者は自分の権威を誇示するがため絶対的肯定を要求する。諂い者は手を合わせて『当然之事』を合唱し媚び諂う。目上の人に対する私達の反応がイエス・キリストの信仰に根拠しているだろうか。権力を余念してはないだろうか。今、私たちは自分自身に問いかけてみる必要がある。†

美しき人 | パク・ヒョンホン 代表 (社) ラビング・ハンズ

たった一人の手を 最後まで握って離さない



大企業で最初の会社員生活を開始。大学院に通っているときに、教授の勧めでオーストリアに留學生活の経験のあるパク・ヒョンホン代表は、ある NGO 団体の公募を見つけ応募、合格後 7 年間、社会福祉と北韓への奉仕活動を行った。活動中、青少年達に絶えず、関心を持つこと、友達を持つことの大切さを説きながら、周りの人達に自分の夢を語り、100 名の後援者の支援を得てラビング・ハンズを 2007 年 2 月 14 日のバレンタインデーの日設立。以後 10 年、87 名の子供達が無事に高校を卒業し、現在は 220 名の協力者を得ている。2013 年 10 月 9 日のハングルの日には 1018(10 歳～18 歳)の場所のない子供たちが思う存分、遊び、食べ、本を読むことの出来る小さな空間、「緑のリボン図書館」を開館した。この場所を通じて子供たちが自ら本を読む力を養い自分の人生を切り開いていく夢を持ってくれることを願っている。

2 号線、弘大入口駅、1 番出口を出て徒歩 10 分ほどのところに緑のリボン図書館の表札がある。石板に書かれている「児童、

青少年の為の 1018 対面式座席の空間です」という文句が目に残った。

「1080 図書館はここにしかありません。全国に 5 千余りの児童図書館がありますが、すべて未就学児童と小学校低学年を対象とするものです。子供たちが授業や試験が終わっていく場所は主に、女子生徒ならカラオケ、男子生徒ならネットカフェです。学生たちの 1018 文化は今や主流となっている。緑のリボン図書館はこんな子供達に本も好きなだけ読めて、遊んで、食べられて、休むことのできる空間を提供し、大人と子供が共にいい関係を築くことのできる場所なのです。」

ラビング・ハンズと緑のリボン図書館（キム・チソン共同代表）のパク・ヒョンホン代表の言葉だ。

10 年前、相対的に福祉の死角地帯（片親の家庭、もしくは祖父と孫の家庭など）にいる児童や青少年たちを支援するラビング・ハンズと言う仕事を始めた時も、3 年前ラビング・ハンズの子供たちがかわいそうだと言う、単なる社会的通念から抜け出て、子供たちが、思いっきり自由に自分の夢を持つことができる空間である緑のリボン図書館を作った時も、すべての事は神様の前で跪いたことから始まったのだった。小さな田舎の教会の牧師であったが自分を呼んでくれるところであればどこへでも出かけて行き、体が弱かったせいでいつも神様の前で跪いている時間を持つことが常だった、その父親の姿がいつの間にかパク代表の姿となった。

「世間知らずで本当の意味で、神様に会う前のこと、その頃はそんな父親の姿が嫌だったんです。若い頃、肺病を患いながらも、神様が癒してくださった事で、その後すべてのことがうまくいき、健康も完全に取り戻せたかに見えたのですが、実際、肺の

写真を撮ってみると、その 90% を失っている父親が残りの 2% の肺で 76 歳まで生きられた事は神様の恵みであったのだと、後になって悟りました。」

パク代表はその頃、牧師の息子として自分なりに友達を教会に大勢連れてきたりしていたが、いつもそれまでで終わっていた。教会にさえいったん連れてくれば神様がその後の事はやってくれると思っていたからだ。しかし彼が伝道した大学の後輩に偶然道で会った時、彼が言うのに先輩どうして私を教会にだけ連れて行ってその後何の関心も示してくれないのですかと言う話を聞いた。

「その後輩の話を聞いてわかりました。人は人に対して関心を持つことがいかに必要であるということに。その関心は絶えず持っていなければならないということを……。」

またもう一つ彼にとって良い経験となった事は、彼が規模の大きい NGO 団体で仕事をしていた時、7 人の子供たちを持つ未婚の母親の家庭を、ある小さな開拓教会の牧師の奥様に支援をお願いした時のことだった。

「私がお願いした後その奥様は 10 年以上その 7 名の子供たちを、全て責任を持って面倒みてくださったのです。今やその子供たちがその教会に置いて頼もしい奉仕者となっています。毎週 7 名の子供たちを教会に連れてきて、その奥様とは本当に強い絆で結ばれるようになりました。これが真の関心の姿であると私は悟ったのです。」

彼はいつもこの絶え間ない関心と愛についてこたわった。そう、近しい友達たちや周辺の人たちに、物質よりももっと重要なもの、自分の人生を計画し夢を持ってこの虚しい世の中を生

きていくことのできる勇気と未来を共に、考えようとする関心を形成することのできる道を青少年達に開いてあげたいと言う願いを語るようになった。

驚くべきことが起こりました。心の中で願っただけ、口に出して言っただけなのに、身の回りで200名の後援者が集まってくれました。そしてラビング・ハンズが誕生したのです。多分、当初から100名もの後援者から支援を得て、生計を立てられたのは、本当に稀なことだったのではないかと思います。

韓国では適切な時期に勉強せず、その時期を逃してしまうと普通の暮らしを送ることが難しくなります。親が家を出てしまい、家庭から関心を持たれず育ち、間違っただ道にはまった供たちの行く場所は想像に難くありません。女子生徒たちは援助交際、男子生徒たちは非行に走って行く。ラビング・ハンズは子供たちがそのような間違っただ道にはまっていく前に彼らの手を捕まえ救い出すと言うことが目標であり1人の児童・青少年も残さず、自立できる年齢まで持続的に援助していく。

「実は家出をし、一度間違っただ道を選んでしまった子供たちをもう一度、元の道に戻すと言う事はそれが起こる前の予防よりも100倍も難しいことなのです。人は一度、事が起きたあとにかくに助けてあげられるかに重きを置きがちですが、事前に導くことへと、考え方を転換することが必要なのです。」

だからラビング・ハンズはメンターとメンディを引き合わせると言うことを行っている。メンターは18時間の教育を受け(有料)、自分たちが暮らしている地域でメンディと会うのである。一家月に2回会い、一緒に食事をし、話をする。このようにして1人の子供のメンターができれば短くても3年(高一から)、長くても10年(小学校3年生から)である。子供が高校卒業する

時まで1人のメンターが面倒を見る。よく6ヶ月単位で変わる社会保障制度の下では、先生(相談であれ教育であれ)は子供たちと深い愛によって信頼し合うことが簡単ではないためである。子供たちは長い間、自分の話を聞いてくれ、信じてくれて、辛い時に肩を貸してくれる人を忘れることがない。

パク代表は言う、「誰かがあなたを最後まで諦めずに見ていてくれていると言うことを伝えたいのです。そしてこのことを教会と共にやっていきたいのです。子供達でなくても、周りの一人暮らしの老人や、障害者たち、病気の人たちでもいいのです。一ヶ月に2回ずつだけでも必ず訪ねて話し相手になってあげて、食事を一緒にし、そのような関係をその人が取り戻すことができるまでしてあげられたら、イエス様もその魂が戻ってこないはずがないとおっしゃっています」この世の中のすべてのクリスチャンたちが、ただ1人をこのように継続して面倒みてあげ、友達になってあげることができれば神様の国がこの地上にできる日がそう遠くは無いはずだ。

「自殺率が多いといいますが、青少年たちはもっと深刻な状況です。1年に数万人が学校を止めるという統計もありますが、こうした中、教会を辞めてしまう子供たちの自殺率ははるかに高いのです。そういったことが起きる前に子供たちの手を掴んであげなければなりません。あなたたちの味方であると言うことを教えるべきなのです。最近このような幼い羊一匹が百万ウォンと言う話を聞きました。イエス様は残りの99匹を置いて1匹の迷子になった羊を探しに出かけられました。大部分の財産の喪失も厭わないと言うことです。普通の常識ではありえないことでしょう。これはイエス様の心です。1人の人をあきらめると言うことがないと言うその愛を私は今日も学んでいます。」†

十字架と復活の間にある真実



十字架上で、イエス・キリストの肉体はいけにえに必要な小羊として死なれた。祭司たちの手によってこの地に来られた目的が成就されたのである。そして、金持ちの墓に葬られ、いつも言われた通りに、三日目によみがえられた。使徒として召されたパウロは後に、十字架の出来事をこのように述べる。「神は、わたしたちを責めて不利におとし入れる証書を、その規定もろともぬり消し、それを取り除いて、十字架につけてしまわれた」(コロサイ 2:14) と。

福音書の記録によると、ローマ兵士たちはイエスを十字架に付けたけれども、それと同時に、霊的世界では、私たちを責め

不利に落とし入れる法条文に書かれた証書を、主は十字架に付けられたのである。その事が実際に神とサタンの間で、霊の世界において起こったのである。と同時に、裸にされた罪なき主イエスのみからだは、罪人と悪人たちに見世物とされたけれども、実は十字架上で無力化させ、もろもろの支配と権威を見世物にして下さったのである(コロサイ 2:15)。サタンは、ヘブル祭司たちとローマ帝国の権力が連合し、ユダヤ人の王なるイエスを死刑場で見世物にした瞬間、霊の実世界ではその陰謀を主幹したもろもろの支配と権威を見世物にし、十字架で勝利されたのである。

そうして勝利されるとすぐに、大声を出して霊が肉体を離れ、この地から離れて逝かれた。この出来事を、変貌山でモーセとエリヤが現われてペテロに聞かされたのは、「栄光の中に現れて、イエスがエルサレムで遂げようとする最後のこと」(ルカ 9:31)を話していたと、ルカは記録した。モーセとエリヤがヘブル語やアラム語で話したかもしれないが、その出来事を記録したルカは、ギリシャ語で『最後』をエクソダス(Exodus)、出発として表現している。十字架ですべての支配と権威に勝利された後、主は復活される前に、その霊が離れ何処へ出発しただろうか。

すべての人が死ぬと、救われた霊は上に昇り、救われずに霊が生かされることもなく、生れ変わることもなかった魂は下に降って行くのである。だけど、罪なきイエス・キリストの肉体は死刑実行後、すぐに墓に三日間葬られていたが、肉体を離れたイエス・キリストの霊は上に昇られたのではなく、地獄に行かれた。

その地獄では、すべての支配と権威を持つ者たちがパーティを開いていたであろう。彼らの父ルシファーは、天上で神に負けて追い出されたけれども、この地では罪を犯す人間たちを合

法的に自分たちの僕にし、神の御子を死なせることで勝利した
と思い込んでいた。彼らは地獄でスコアが1対1だと思っていた。

ところが、そこにキリストの御霊が現われたのである。「キリストも、あなたがたを神に近づけようとして、自らは義なるかたであるのに、不義なる人々のために、ひとたび罪のゆえに死なれた。ただし、肉においては殺されたが、霊においては生かされたのである。こうして、彼は獄に捕われている霊どものところへ下って行き、宣べ伝えることをされた」(Ⅰペテロ 3:18～19)。使徒ペテロの記録によると、キリストの御霊は地獄へ下って行き、そこにいる霊どもに勝利を宣言された。復活されたときではなく、十字架上で勝利なさった後だというのである。

しかし韓国のキリスト者たちにとって、この三日間の宣言が重荷だったかしら。いま英語の使徒信条には「He descended into hell」と記録されているが、韓国は1908年から、讃美歌の本に収録された使徒信条に「陰府にくだり」という文章が抜けてなくなった。それが今に至るまで削除されたままだ——ちなみに、日本の使徒信条には「陰府 (よみ) にくだり、三日目に死人の内によみがえり」とある——が、キリストはこの三日間、陰府へ下って行かれたのである。

4世紀に初めて登場した原文使徒信条はラテン語で書かれたが、「陰府へ下って行かれ」(descendit ad inferos、英語 He descended into hell) となっている。もちろん、使徒信条そのものの權威を認めないプロテスタント教団があることも知っているし、また理解もできる。その当時、真のキリスト者たちを迫害した宗教団体で作られた信仰告白もあり、それに「きよいカトリック」という内容も入れてあるから。

けれども、キリストが十字架で死なれ、復活される前の三日間、

キリストが十字架で死なれ、復活される前の三日間、その霊が肉を離れ天国に行って戻って来られたのではない。陰府——地獄——へ下って行かれた後、墓に戻られたのは事実だ。天国には復活後、40日後に昇天して行かれた。

その霊が肉を離れ天国に行って、再び戻って来られたのではない。陰府——地獄——へ下って行かれた後、墓に戻られたことは事実だ。天国には復活して、40日後に昇天して行かれた。

アメリカのリバイバルリストとして用いられるジョナサン・エドワーズ牧師は当時、「地獄の火」の説教師(Hell-fire preacher)であると非難されるほど、地獄の火について多くのメッセージを語った。しかし現代の主日メッセージとトラクトは、地獄とサタンに関する真理を避けている。水の裁きの話をせずに、いかにしてノアは箱舟に入らなければならなかったか、その理由を悟ることはできない。火の裁きを話さずに、ロトがソドムから脱出しなければならなかった理由をいかにしてわかるだろうか。

終りの時は、ノアとロトの時のようだ。その時がいまだ。キリストが十字架に死なれ、なぜ三日間地獄に行って来られたか、不思議に思わなければならない。地獄の火と火の裁きの話をしなければならない。でないと、悔い改めなければならない理由をいかにして悟ることができるだろうか。†



資本主義が大丈夫なものなら、 悪いものは何なのか？

先月のコラムの主題は、聖書的な観点から見た資本主義でした。商業や経済領域において、神が重要にされるものは何なのかを見てみました。すべての経済的行為や取引において、神が最も関心を持たれることの一つが、『正直』と『真実性』でした。

1907年平壤チャンデヒョン教会に聖霊が臨み、大リバイバルが起きました。その時、リバイバルの結果として人々を驚かせたのは、大部分の人が借金を返済し、盗んだお金を返し、経済活動において神が見るに正しいことを行なったという事実です。他のいかなる要因よりも、こういう事一つひとつが都市に大きな影響を与えました。神は真理に対して関心をもっておられます。また、公正な秤や物差を用いることにも関心をもっておられるのです。

また私たちは、資本主義についても学びました。資本主義とは、基本的に人や社会に益となる財産をもうける目的で、資本や蓄積された労働を使用することです。資本主義自体が本質的に悪いものではありません。人々がいかにして資本を蓄積し使用するか、それが問題になるということです。資本主義や投資、資本の増加、それ自体が問題ではないということです。資本主

義は健康な社会において、一般的水準の財産が形成されるために必要です。

しかし、資本主義と関連してよく混同される二つの悪があるという事実を、指摘したことがあります。一つは、「地主制度」という偶像礼拝的システムであり、もう一つは、重商主義（マーカンティリズム）です。地主制度は神のものを盗み取ることです。だから、偶像崇拜と言うのです。重商主義は人々から盗み取ることです。

父デ・チョンドク神父も私自身も、この地上で国家の土地法を聖書の基準に替えることについて述べました。また、これを現代社会にて成就させる方法的側面から、「ただ土地のみ税金を課そう」とうたった19世紀アメリカの経済学者ヘンリー・ジョージの経済理論適用についても述べたことがあります。これは、本質的に社会が国家という制度を通じ、土地に対する賃貸料を徴収することを可能にします。

レビ記25章23節には、「地はわたしのものだからである」とあります。土地の価値は、神が自然を通して地をお造りになる際に決定し、またその土地に社会が共同体や社会基盤施設を建てることによって、その価値が増加します。神がお造りになった、だから当然神の所有である土地を、まるで自身のものであるかのように取り扱うことは、神を侮ることです。これは『偶像崇拜』です。父デ・チョンドク神父はこれをバアル主義と呼びました。なぜなら、これはツロからイスラエルに持ち込まれた慣習だからです。（ナボテのぶどう園について書かれたI列王記21章を見てください）

私たちには、土地のたったひとかけらも自分のものにできる

ほどの根本的な権利はありません。私たちは地を所有することも、地の主人になることもできません。これは神のものを盗み取る行為です。しかし、私たちが土地の上に建てた構造物、その構造物から得られたもの、その土地で私たちの労働の結果として生産されるものは所有することができます。他の財産同様に土地を扱うことは地主制度であり、聖書的観点から見れば、これは間違いです。

地主制度は神のものを盗み取ることだと考えます。それでは、なぜ重商主義は人から盗み取ることだというのでしょうか。それについて調べてみたいと思います。「重商主義」という用語は、18世紀フランスの経済学者ヴィクトル・ド・リケッティとマルキ・ド・ミラボーが、初めて使った用語です。後に、重商主義を批判したアダム・スミスも、彼の論文<国富論>において、この用語を使っています。ミラボー侯爵は、特定の生産品や行動には罰点を加え、他のものには報償することで、王や国家が経済を支配すべきだと教えました。最初は、関税や他の貿易障壁を通してなされました。そして、その目的は他国、また他の国の労働者と資本家の犠牲によって、国を富強にすることでした。

重主主義は、それから派生したものは18, 19, 20世紀にわたり、植民主義増加と戦争の拡張に直接的な影響を及ぼしました。重商主義は根本的に、ひとりの人間の労働によって生産されたものを盗む、盗み行為です。国家は、関税や他の税金によって個人の労働力や富の一部を取る、そして、市場で自由に商品を取引する能力と、その努力に相当する利益を受け取ることを制限することで、盗み行為を自行してきました。

長年にわたってなされたこのような慣行は、「より強い国をつくりあげるため」という原理目的を超越し、巨大企業や現代政府の結託につながりました。その中に、多国的企業があるのに、彼らは自分たちの利益になるよう、政府に市場を統制する政策や法律をつくらせ、巨大な影響力を行使します。もし一方が彼らのためにつくられた法律によって利益を得るのなら、他方は損失を負い苦しむようになるほかありません。ここには失敗した企業に救済金融を提供することも含まれます。

聖書は、政府のような統治期間は神が立てられたものであり、だった一つの例外——最も高き神に対する従順——を除いて、その統治を尊重し従順しなければならないと教えます。また、政府が剣を用いて、警察や軍の脅威によって、拳銃を突き付けて強要するはずだという事実も想起させました。悪を罰し、良いものに報いるため、公正かつ安全な社会を維持するため、神はその権威を国家に許諾しておられるのです。国家や、国家と結託した少数の人たちに利益を与えるためではありません。ペテロの第一手紙2:13～17、ローマ人への手紙13:1～7、使徒行伝23:3～5、そして使徒行伝5:29を参照してください。

韓国の歴史を振り返ると、日本の植民地時代に行われた重商主義の結果を明確に見ることができます。日本の天皇の権威は、韓国の地で生産されたものを奪い取り、日本の産業や軍隊、特に、エクスパンションイズム（expansionism、膨張主義）戦略によって、中国や連合軍との戦争準備のために使われました。日本は韓国の製造業、農業、貿易業すべてを支配したのです。ヨーロッパでは国家社会主義、あるいはナチズムがこのように産業を統制しました。これは、実際共産主義を含め、すべての社会主義

的な政策の土台です。歴史的に重商主義の政策、そして国家が経済を統制すべきだという基本概念をもつすべての政策は、過去 150 余年間、数百万人の人を奴隷状態にし、死に追いました。重商主義は、しばしば資本主義と関連があり、また混同されがちです。なぜなら、この現代社会においては、巨大企業があって、政治と結託して自分たちに利益になる法律、税金、関税、貿易障壁、国家補助金などを設けることもでき、あるいはあれやこれやの理由に影響を与え、統制したいからです。

ある人たちは、このような政策は力のない国や社会にとって助けになる、と擁護します。1970、80 年代に、朴正熙大統領パク・ジョンヒが施行したハンガンこういう政策は、「漢江の奇跡」を生み出し、多様な生産と貿易分野において、韓国が世界的地位にまで上り詰めることができたのも事実です。しかしこのような政策は、さらに韓国の財閥システムをつくり出し、私たち社会における長年の問題となっている不正や腐敗行為を生み出しました。過去の政策や、国家補助金や貿易障壁を通し、特性産業や企業を支持する現代政府の政策は、ほとんど差がありません。多くの人は、過去数十年間にわたり制定し施行された法律が、韓国、アメリカ、日本、そして他の国においても、貧富の格差を広げたと言います。政府がその動機と意図が何であれ、経済を統制すればするほど、短期間には助けになるように見えても、長期的には経済に不正的な影響を及ぼし、結局、より多くの一般市民は苦痛に遭われるということを、歴史は示し続けています。

アメリカで「土地単一制運動」と呼ばれ、唯一、土地の価値によって税金を課すという基盤をつくり出したヘンリー・ジョージが、貿易障壁を反対する文を書いたことがあります。私はこれについて話したいと思います。彼は、世間の学者

たちが、彼の至高作だと称する＜保護貿易、あるいは自由貿易（1886）＞において、保護主義を戦争に比喻しました。

税金と什一献金について最後に話したいことはこれです。聖書は「カイザルのものはカイザルに、神のものは神に返しなさい」と、御言葉を通して私たちに世の権威に税金を払うことを教示しています。また、私たちの労働によるすべての収入の十分の一を、宗教的権威を通して神に捧げるようにと学びました。しかし、この中でどれも——収入、販売、資本、あるいは土地を除いた他の財産に対する税金を払うことも——聖書的定義ではありません。聖書的観点から厳格に言えば、これらのすべては公認された政府の盗み行為です。

しかし私たちは、政府を尊重しなければならず、法律を無視したまま抵抗するのではなく、平和を保てる方法で、この悪法を変えなければなりません。反面、什一献金は税金ではありません。世的な税金に比較することはできません。什一献金は神がこの地の主人であるとともに、私たち人生の主人であることを認識し認めることです。私たちはみな創造主なる神に属し、私たちが富を得るためのすべての努力は、唯一、神が私たちに与えられた祝福を通してのみくるのです。什一献金は、いっさいのことに神が主人となられることを認め、生命と健康、家族、そして働ける能力を与えてくださった神に対する感謝の表現です。

敬虔な聖書的経済システムが私たち社会に生じるよう、土地とあらゆる権利の主人公は神であると認め、労働に対して個人的に決定し、それによって生産されるものも個人的に処理できるようにしましょう。真の定義に基づいた安定的かつ繁栄する社会は、ここから始まるようになるでしょう。†



発行：純福音東京教会・出版部

【翻 訳】：高峰英 姉妹、林俊秀教育生、間杉綾乃 執事、朱水晶 執事、李 珍 執事、
山野永理 勸士、朴秀珍 執事、趙芝賢 伝道師、澤田義則 執事、金景娥 執事、
朴宰完 按手執事、金澤由紀子 勸士

【日本語校正】：松谷恵理 執事、佐野 綾 執事、間杉綾乃 執事、金澤由美 姉妹、山口裕功 執事、
吉田綾子 執事、笠原幸子 執事、武石みどり 執事、向川 誉 執事、澤田義則 執事

【印刷・製本】：間杉典生 按手執事

【再 編 集】：金澤由紀子 勸士
